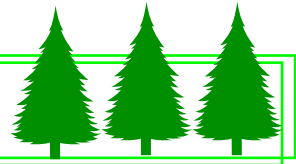


みつぎ便り



第163号 4月号 令和2年4月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report



板橋区役所みどり公園課の花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



スノーフレーク

公園のバス通り側の小さな花壇にスノーフレークが開花しています。ヒガンバナ科の球根植物で、原産地はヨーロッパ中南部で日本には昭和初期に渡来しました。二月頃に長い葉を上向きに伸ばし、三月～四月に花茎の先に数個の白い釣鐘状の花を下向きに咲かせます。六枚のそれぞれの花弁の先はフリルのように見え緑の斑点が見られます。

花がスズランに似て、細長い葉が

スイセンのようなのでスズランスイセンの別名を持っています。また、マツユキソウの別名を持つスノードロップに似ていて大きいことからオオマチユキソウの別名もあります。スノーフレークはリコリンなどの毒をもっている有毒植物で、誤って食べると嘔吐、頭痛などの症状が出ます。葉がニラに似ているため、間違っって食べて中毒となった例があるので注意が必要です。
(薫)

ネモフィラ

公園の花壇は、春と秋の年に二回花の植え替えを行っています。残念なことには植え替えてしばらくして、冬の間にはハトのエサとなり枯れてしまいました。そこで、会員で緊急に二十株ほど二種類の花を追加して植えました。

今回はそのネモフィラを紹介します。今頃の時期になるとテレビで、茨城県の国営ひたち海浜公園みはら



しの丘の快晴の青空と同化して咲いているネモフィラの映像が良く紹介されています。「あの花か!」と思い出す方も多いかと思えます。

ネモフィラは、アメリカ大陸に十一年ほど分布しているようです。花は四月～五月に開花し、白に空色又は青紫色をして、草丈は十センチほどです。一年草で耐寒性があり、比較的丈夫なので花壇でもプランターでも育てやすいと言えます。
(圭)